

マキウラ鋼業株式会社

本社:〒672-8078 兵庫県姫路市飾磨区英賀字東浜甲1960番地の5
TEL.079-234-5111(代) FAX.079-234-5013

<http://www.makiura-steelwork.com>

Recycling Solutions



Statement

—企業理念—

ダイナミック且つ繊細にリサイクルを実施し、未来を創造する

Mission

- 消費社会によってもたらされる廃材がいつ何時、多量に発生しようと、常に効率よくリサイクルを実施し、社会の清潔を提供します
- 希少金属等、一見回収困難なものでも繊細にリサイクルを実施し、地下資源掘削の低減を提供します

Message

世の贅沢を支える企業

我々は、一度不要になった物をリサイクルしている会社です。消費社会によってもたらされた便利さの代償である大きな問題を、一つ一つ解決していく事が我々の使命であると思っております。

昨今では世界人口の増加や地球温暖化により、サステナブルな社会の形成が求められる時代となりましたが、当社はこの時代が求めるずっと前からリサイクルに携わって来ました。

「環境問題の解決、これを深く追求した時、私は真っ先に「モノを長く使う」事が何よりも環境に優しいと認識しています。

しかし、ヒトはまだ使えるものでも新しいモノに惹かれて、新たな廃材を生み出します。

環境問題を人類で解決していこうとしながらも、常に新しいモノを求め開発し続けています。それは「便利さを求める」「贅沢をする」という人間の根底にある真理を基に経済活動を行なっているからだと認識しています。

経済と環境が切り離せない表裏一体の関係にある事を念頭に、ヒトがこれからも便利さを求め贅沢をしても、廃棄物問題を我々が解決することで、世の中の贅沢を支える企業でありたいと思っております。

代表取締役 薪浦 州平



●掲載の模型は鉄スクラップを再利用して製作しました。

Our Work

最新鋭の設備、長年の経験と技術で
更なるリサイクルに挑戦し続け、
「ダイナミック且つ繊細な事業展開」を
行なっています。

▶ Case 01 廃自動車リサイクル

最新鋭の設備、長年の経験と技術でさらなるリサイクルに挑戦しています。
自動車は、我々の生活の中で今や切っても切り離せない存在となりました。現在、日本は約7800万台の自動車を保有しています。(2022年3月現在)
そして、その内の年間約304万台の自動車が廃車されています。(2021年度)
鉄・アルミなどの金属、プラスチック、ガラスなどあらゆる素材から構成されている自動車は、廃棄の段階になると金属などを別々に分別しないとリサイクルできません。弊社ではシュレッダーマシンという設備によって解体済自動車を破碎し、金属などの分別を徹底的に行っており、その実績は40年以上に及びます。現在に至っても、長年培った知識・経験を活かし、今まで回収困難だとされていた資源の回収にも取り組んでいます。分別された金属などは、弊社取引先の製鋼所や非鉄精錬所にてもう一度素材として再生されています。
さらに弊社では、ASR(シュレッダーダスト)再資源化施設の環境・経済産業大臣認定を取得し、ASR中に含まれる金属類の徹底回収に加えて、ASRからセメントメーカー向けの原料となる材料や鉄鋼メーカー向けの固形化燃料を製造し、ASRの再資源化を図っています。

年間約20万台の廃自動車をリサイクルしている設備。日本でのシェアは6~7%



▶ Case 02 プラスチック マテリアル リサイクル

サーマルリサイクル(燃やす)だけではなく、マテリアルリサイクル(樹脂再生)に取り組んでいます。
ASR(シュレッダーダスト)にはプラスチックも多く含まれています。
弊社は、世界的にマテリアルリサイクルが難しいとされる、廃自動車由来のプラスチックの再生事業にも特化しております。
マテリアルリサイクルを行う事で、既存のサーマルリサイクル施設への納入量を抑制出来ます。その結果、樹脂が焼却される際に発生するCO₂の削減に繋がります。



▶ Case 03 廃自動販売機リサイクル

有用金属の徹底した回収を行っています。
多くの利便性を持つ自動販売機は、現代社会において広く普及していますが、その反面、廃棄される段階になると適正に処理しなければ環境破壊へと繋がります。
例えば、自動販売機に含まれるフロンガスが適正に回収されず、そのまま大気に排出されてしまうと、オゾン層が破壊されてしまいます。蛍光灯や電池においても、それらの中に水銀その他重金属等が含まれているため、適正に回収しなければなりません。
弊社ではそれら有害物質を含むフロンや蛍光灯・電池などを事前除去した後、残りの複合素材をシュレッダー設備で破碎処理します。破碎物は、鉄や非鉄及び貴金属類の各品種に選別後、リサイクルされます。また、事前除去されたフロンや蛍光灯・電池などは外部にて適正に処理又はリサイクルを委託しております。



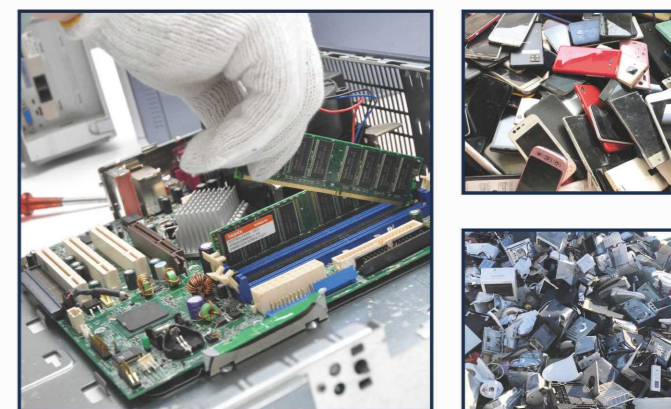
▶ Case 04 鉄・非鉄・スクラップ・廃棄物リサイクル

永年に渡り鉄リサイクル・廃棄物処理に貢献してまいりました。
弊社では、発生工場や解体現場等の市中から回収した鉄及び非鉄金属スクラップを、素材毎に効率よく有効利用できるよう、熟練したスタッフが選別を行っています。さらに近年では機械や分析機を使うことによりリサイクル率を追求するとともに自社開発による機械設計・メンテナンスを行うことで、スクラップ加工や廃棄物処理時に使用するエネルギーの削減にも努めております。選別後の鉄及び非鉄金属スクラップは弊社のネットワークを活かして全国及び世界各国へ販売、リサイクルされています。



▶ Case 05 小型家電リサイクル

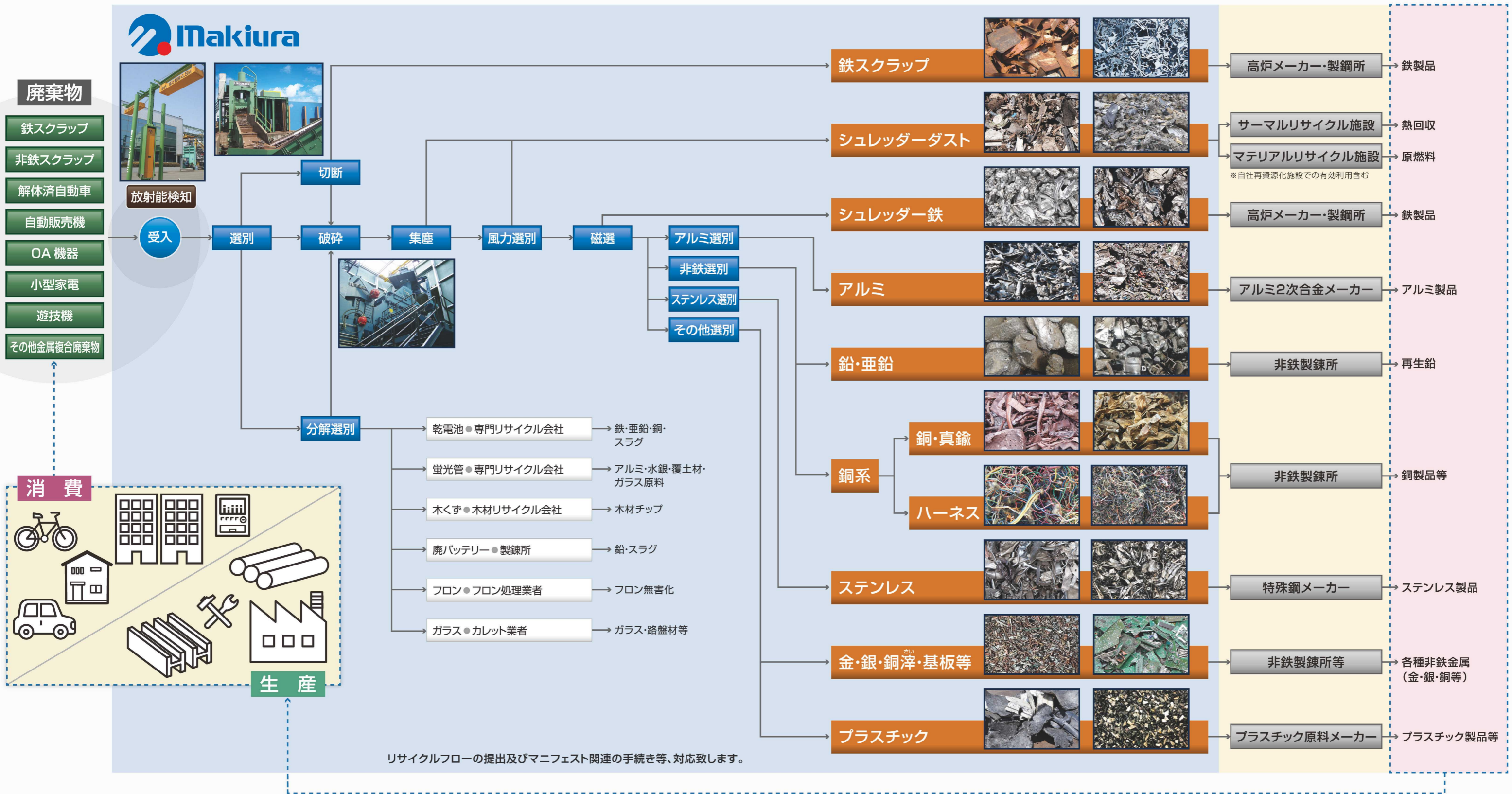
金属選別ラインでレアメタルのリサイクルも可能。
私たちの暮らしに欠かすことのできない小型家電には、鉄・アルミといったベースメタルだけでなく、様々なレアメタル・貴金属が使われています。しかしながら、現状では適正に回収・リサイクルされているとは言いがたく、様々な金属が十分に回収できていなかったり、国内からの貴重な資源の不適正な流出といった多くの問題を抱えています。弊社では、それらの小型家電を回収し、分別後に破碎選別を行う事業に取り組んでおり、鉄やステンレスといったベースメタルだけではなく、国内大手製錬業者とも提携し、レアメタルを含む様々な金属のリサイクルを行っています。
弊社は、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律(小型家電リサイクル法)に基づき、事業者の再資源化事業計画について、平成27年8月5日付にて、経済産業大臣及び環境大臣より認定を取得しました。

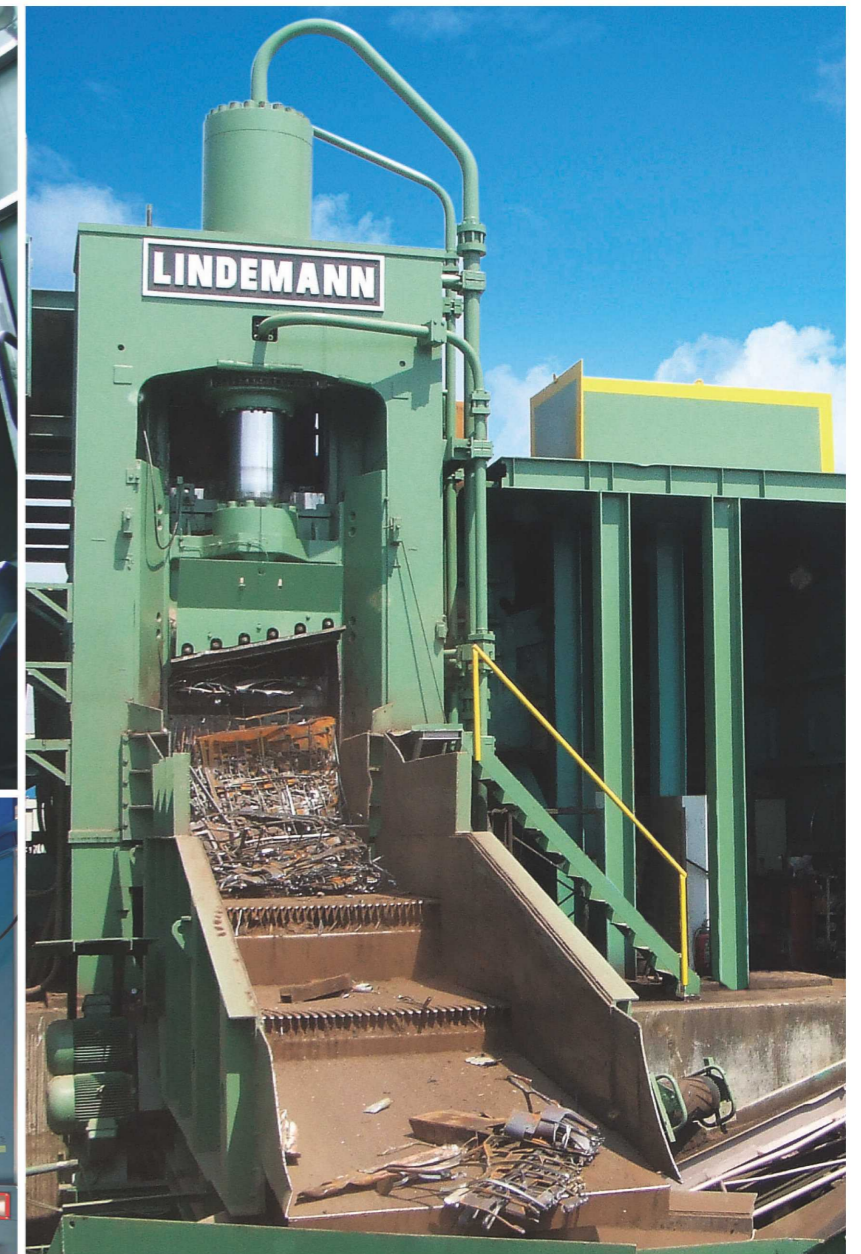


Recycling System

回収から再資源化まで、一貫体制の素材再生及び廃棄物処理フローを実現。

日本経済の急速な発展により、我々の生活はあらゆる面で便利になりました。しかしながらそれに伴い、モノがあふれすぎた消費社会が生まれた事は避けて通れない事実です。製品は次々に新しいものが開発され、市場に出回りますが、それらを構成する素材、すなわち資源には限りがあります。弊社では時代の流れとともに変化する多種多様なニーズにお応えできるよう、リサイクル技術の向上及び人材育成に努めています。





Equipment

施設・設備

[本社] 処理設備

- ・1500HPシュレッダー
- ・1250tプレスシャー
- ・固形化燃料製造機
- ・放射性物質探知機

[中島事業所] 処理設備

- ・2000HPシュレッダー
- ・1600tプレスシャー
- ・ASR・SR再資源化施設
(プラスチックマテリアルリサイクル施設)
- ・固形化燃料製造機

[鳥取事業所] 処理設備

- ・1600tプレスシャー
- [港ヤード] ※姫路港**
処理設備
- ・放射性物質探知機
- ・移動式プレス

Environmental Policy

企業の社会的責任を果たすために、環境マネジメントシステムを活用します。
(ISO14001 認証取得)

【環境方針】

わたしたち、マキウラ鋼業は、金属スクラップをはじめとするあらゆる資源のリサイクル並びに廃棄物処理にあたり、企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮し、地域住民・取引業者・その他未来を含む全ての利害関係者から信頼され愛される事業者であり続けるために、環境マネジメントシステムを活用し、右記の事項に積極的に取り組みます。

- 1 環境に与える影響を十分認識し、環境負荷の低減と汚染の予防を図り、地域住民・取引業者・その他未来を含む全ての利害関係者との共存に努めます。
- 2 環境関連法規制及び協定、地域住民その他利害関係者からの要求事項などを遵守します。また、環境汚染のリスクを未然に防止できるよう、環境マネジメントシステムの継続的改善を実施します。
- 3 環境方針に整合した目的及び目標を設定し、継続的な改善を推進するとともに、定期的若しくは、汚染の予防に必要と判断した時に見直します。
- 4 鉄スクラップリサイクルは鉄鉱石から製品を製造する場合に比べて温室効果ガスを75%削減することが出来ます。当社では全員参加で鉄スクラップのリサイクル取扱数量の増加及び省エネルギー活動を実施する事により地球温暖化防止に貢献します。
- 5 未来世代という利害関係者が資源の確保を「期待」していると認識し、「産業廃棄物発生抑制・リサイクル率の向上」を図り資源の有効利用に努めます。
- 6 社員一人一人が、自らの力量を絶えず向上させ、周囲に貢献し、成果をあげることで社会全体に貢献する組織へと成長します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 持続可能な開発目標SDGsとは

持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

マキウラ鋼業では、国連が定めた2030年までの国際目標で「SDGs=持続可能な開発目標」に対して、以下の企業活動に取り組んでいます。



質の高い教育をみんなに

従業員の知識・技術向上を目指した社員教育を実施 (OJT, OFF-JT)。業務に必要な免許、資格に関しては当社負担にて取得をサポートしています。また、環境教育の一環として学生インターンシップの受け入れも行っています。



つくる責任つかう責任

使用済み自動車からプラスチック原料を回収し、次工程において再度自動車部品として生まれ変わる取組み (Car to Car) に積極的に加担し、廃棄物の出ない社会の形成に協力していきます。



働きがいも経済成長も

業務内容の効率化や、新規設備の導入により働きやすい環境づくりと労働生産の向上を両立させます。結果として社内外全てのステークホルダーにとって有益となる企業を目指します。



気候変動に具体的な対策を

鉄スクラップを使用して粗鋼を生産した場合、鉄鉱石・コークスを使用して同量の粗鋼を生産した場合と比較して、CO₂排出量を1/4に削減することができます。当社は高度な選別技術により、高品質の製鋼原料を提出し社会全体のCO₂排出量削減に貢献していきます。



住み続けられるまちづくりを

金属、プラスチック、小型家電等の一度社会において不要となったものを再生利用させることにより、社会全体での廃棄物発生を抑えるとともに、海洋へのマイクロプラスチック流出の削減にも貢献していきます。



海の豊かさを守ろう

金属、プラスチック、小型家電等の一度社会において不要となったものを再生利用させることにより、社会全体での廃棄物発生を抑えるとともに、海洋へのマイクロプラスチック流出の削減にも貢献していきます。

History

沿革

昭和27年 8月	兵庫県姫路市飾磨区中島1089に於いて 薪浦茂樹 が薪浦商店を創業。	平成15年 6月	ISO 14001 認証取得。
昭和30年 3月	兵庫県姫路市飾磨区下野田1-33に事務所及びプレス工場を新設。	平成16年 7月	自動車リサイクル業 (破砕業) 許可取得。
昭和34年 4月	日伸製鋼 (現 JFE 条鋼) の直納問屋となる。	平成17年 9月	建設業許可を取得。
昭和35年 5月	第一プレス工場に隣接して第二プレス工場を新設。	平成17年12月	リンデマン製シュレッダーダスト減容固形機新設。(2号機)
昭和36年 3月	大和工業 (現 ヤマトスチール) の直納問屋となる。	平成18年 3月	RADCOMM 製放射能検知機2基設置。
昭和47年 8月	資本金1,500万円でマキウラ鋼業株式会社を設立、法人に改組。	平成18年10月	メッツオ・リンデマン製1500馬力シュレッダープラント新設。(リプレース)
昭和48年11月	兵庫県姫路市飾磨区英賀字東浜甲1960-5に事務所及び工場、倉庫を設立して広畑工場として開設。	平成19年 3月	非鉄金属選別ライン (メタルパーク) 設置。
昭和49年 2月	広畑工場に富士車輻製500トンギロチンシャーを設置。	平成22年12月	非鉄金属選別ライン (ドリームパーク) 増設。
昭和49年 9月	広畑工場にプレス工場を新設。	平成23年 4月	特別高圧 (22kV) 受電設備を設置。
昭和50年 4月	資本金を3,000万円に増額、本社を広畑工場に移転。	平成25年 6月	小型家電回収に関して、協力業者の認定スキームに参加。
昭和55年 5月	専務取締役の 薪浦 亨 が代表取締役就任。	平成26年 7月	東京製鐵の直納問屋となる。
昭和56年12月	フジニューエル製1,500馬力シュレッダープラントを新設。	平成27年 7月	産業廃棄物中間処理業許可変更 (品目追加) ワンストップサービス事業の開始
昭和57年 5月	富士車輻製200型プレシュレッダー新設。	平成27年 8月	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律再資源化事業認定取得
平成 2年 1月	富士車輻製400型プレシュレッダー新設。(概設の200型を1基リプレース)	平成27年11月	ASR再資源化施設の認定取得 (環境省・経済産業省)
平成 3年 2月	リンデマン製1,250トンギロチンシャーを新設。	平成28年 7月	(旧) 株式会社玉岡マテリアルの事業を譲受
平成 4年 2月	本社新社屋竣工。	令和 元年 9月	中島事業所にて産業廃棄物処分業許可更新取得
平成 6年 9月	産業廃棄物中間処理業許可取得。	令和 2年 1月	中島事業所にてASR再資源化施設の認定取得 (環境省・経済産業省)
平成12年 4月	一般廃棄物中間処理業許可取得。	令和 4年 7月	専務取締役の薪浦州平が代表取締役就任
平成13年 1月	自社製シュレッダーダスト選別プラントを新設。		
平成14年 1月	タジリ製シュレッダーダスト減容固形機を新設。		
平成15年 1月	リンデマン製シュレッダーダスト減容固形機を新設。		

Outline

概要

称 号	マキウラ鋼業株式会社	従 業 員 数	[本社] 89名 [中島事業所] 37名 [鳥取事業所] 14名 計140名
所 在 地	[本社] 〒672-8078 兵庫県姫路市飾磨区英賀字東浜甲1960番地の5 TEL.079-234-5111 (代) / FAX.079-234-5013 [中島事業所] 〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島2172-1 TEL.079-234-5451 (代) / FAX.079-234-5482 [鳥取事業所] 〒680-0921 鳥取県鳥取市古海527-1 TEL.0857-24-5955 / FAX.0857-24-8255	主 な 取 引 先	【国内】 ヤマトスチール株式会社 (直納) JFE 条鋼株式会社 (直納) 東京製鐵株式会社 (直納) 日本製鉄株式会社 株式会社神戸製鋼所 山陽特殊製鋼株式会社 【国外】 POSCO 現代製鉄 世亜BEスチール
創 業 / 会 社 設 立	昭和27年8月1日 / 昭和47年8月1日		
代 表 者	代表取締役 薪浦 州平		
資 本 金	3,000万円		
業 種	製鋼原料加工販売 総合リサイクル業 産業廃棄物収集運搬及び中間処理 一般廃棄物中間処理		

各種許認可一覧

- 産業廃棄物処分業 (中間処理)
- 産業廃棄物収集運搬業
- 一般廃棄物処分業 (中間処理)
- 自動車リサイクル法破砕業
- ASR再資源化施設認定
- 小型家電リサイクル法認定事業者
- 廃棄物再生事業者
- 一般建設業
- 第一種フロン類回収業
- 金属くず商